

容器包装プラスチックと食品トレー 使用済み食用油

今月から分別回収開始

地区ごとに月2回

市では今月から、ごみの減量と資源の有効活用を目的に、従来の資源分別回収の品目に、「容器包装プラスチックと食品トレー」と「使用済み食用油」を新たに追加、回収を開始します。市民のみなさんのご協力を願います。

①ごみの減量・資源の有効利用にご協力を

①容器包装プラスチック

「容器包装プラスチック」とは、品物の容器や包装用に使われたプラスチックのことです。

【例】食品トレー、食品トレーを包むラップ、レジ袋、ボトルキャップ(金属性のキャップは「燃えないごみ」へ)、プリンのカップ、菓子のゼロハン袋(アルミ包装も)、レトルト食品の内袋、カップめん(容器やふた)、豆腐のパック、たばこや菓子

②使用済み食用油

調理で使用した食用油で、植物性の油が対象です(動物性の油は、対象とはなりません)。

【例】サラダ油、コーン油、大豆油、綿実油、べにばな油

③集積所への出し方 朝8時30分までに

各地区ごとに指定された回収日の朝8時30分までに、いつもの集積所へ出してください。

④回収日

回収は、各地区ごとに月2回です。資源分別カレンダーでは、灰色で表示しています。



20日に屋内消火栓操法大会開催

次の世代を担う市消防団員を募集

消防団では、次の世代を担う方を求めています。あなたの力を、まちの安全確保に生かしてみませんか。

●18歳以上の男性

市の消防は、常備消防と非常備消防(消防団)で組織されています。消防団の団員は、それぞれの職業に就きながら、災害の発生時に現場に駆けつけて、人命救助や火災防ぎよにあたります(勤務中に出勤することも)。必要に応じて消防本部から事業主に依頼書をお送りします。

▽組織 団長1人、副団長2人のもと、市内15分団(1分団15人で構成) ▽資格 18歳以上の男性 ▽活動内容 火災な

●固まる油は対象外

動物性の油は対象となりません。今までも「燃えるごみ」に出してください。

【例】バター、マーガリン、ラード、ヘットなど

※分らない場合は、お問い合わせください。

●10月は違法駐車追放強化月間

(放置自転車・バイククリーンキャンペーン)

10月は、違法駐車追放強化月間です。期間中は、①違法・迷惑駐車、②交通ルールの順守と駐車マナーの向上、③飲酒運転の追放の3点を重点項目とした運動が実施されます。

一人ひとりが交通安全意識を高め、ルールを守り、正しいマナーで交通事故防止に努めましょう。



ことしのキャンペーンポスター

環境保全課(内538)。

0355(内232)

0355(内236)

第470話 郷土の里うた・里ことばなど(4) 現国分寺の宝篋塔と御詠歌

国分の大ケヤキからまっすぐ東方に進み、石段の左にかかろうとする左手に、郷土かるたの瑠璃光の如くあらたか 葉師堂の標柱がある。同寺の御本尊と靈験を詠った句である。この石段を上り切ると、正面突き当たり高き三・三にもある宝篋塔が目に入る。これは正覚寺(門沢橋)の長谷川正冬(三・六五)の常泉院(上今泉)の青山忠俊(三・三三)の、その二領主の宝篋印塔に匹敵する堂々たる塔である。形態上は、前記二領主の塔が純粋な宝篋印塔であるのに対し、国分寺の塔は装飾的な趣向を凝らした独特な形をしている。そのためか、基礎上段の塔身正面中央に「宝篋塔」と、「印」の字を省略して刻んである。この塔銘の左右に「日経」と題し経文を刻むが、風化して多くの漢字が明らかでない。しかしこれは、前記の長谷川氏のものと同文なのである。

なお、左側面には「相州高座郡東光山国分寺拾ヶ村講中、右側面に「千維文政七(一八二四) 甲申歳仲春吉辰」とあり、今から約一八〇年前の造立であることを示している。三段目の正面には香煙の上がる香炉を捧ぐ僧を、右面には竹に虎、左面には牡丹に唐獅子を陽刻、その上段の蓮台基部正面には目を刻く龍、他の三面を爪立つ脚を持つ蛇身をかまます彫刻、蓮台上の石には三面に二体ずつの地藏つまり六地藏を、最上段には宝珠をいただく笠。それらをつぶさに観察すると、いかにも芸術性の高い塔であることがわかる。

三段目裏の左半面に石工名が彫られ、右半面に発願主 飯田弥兵衛母 世話人 飯田忠兵衛内 同 岩壁 善六母 同 金子庄右衛門母

と刻んである。この方たちは何れも国分の人で、「弥兵衛母」は現戸主・久雄家の先祖、「忠兵衛内」は現戸主・俊三郎家の先祖で、「内」とは「内儀」で妻の意である。「岩壁善六母」は現戸主・池田正一郎家の先祖、「金子庄右衛門母」は現戸主・陽一家の先祖に当たる。これより三十八年前の方は名主、その後幕末期には代々二十二年間も名主を勤めた家柄。庄右衛門氏はこのころ穀渡世仲間で、住居が国分寺のある小名「堂の下」であるから、その母は地元代表として活動されたと思われる。さて、この塔の謎は誰がための供養塔かということである。結論をいうと、これは「尼の泣水」の話に出てくる尼さんの供養塔といえよう。「尼の泣水」のことは「新編相模国風土記稿」にあり、県のむかしはなし五十選にも入っている。

海老名むかしはなし



刻まれた発願主の銘(拓本) 池田正一郎家の先祖、「金子庄右衛門母」は現戸主・陽一家の先祖に当たる。これより三十八年前の方は名主、その後幕末期には代々二十二年間も名主を勤めた家柄。庄右衛門氏はこのころ穀渡世仲間で、住居が国分寺のある小名「堂の下」であるから、その母は地元代表として活動されたと思われる。さて、この塔の謎は誰がための供養塔かということである。結論をいうと、これは「尼の泣水」の話に出てくる尼さんの供養塔といえよう。「尼の泣水」のことは「新編相模国風土記稿」にあり、県のむかしはなし五十選にも入っている。